

三重の句碑めぐり

三重県は松尾芭蕉まつおばしやうが生まれた地ということもあって、各地で盛んに句会くかいが行われています。

また、各地にゆかりの俳人はいじんの句碑もたくさん建てられていて、それは、三重県のホームページで紹介しょうかいされています。

(<http://www.pref.mie.jp/bunka/haiku/kuhi>)

自分の住んでいる所やその周辺しゅうへんに、句碑がないか探してみてもいいでしょうか。県内のどこかに出かけた時、先人せんじんの句碑を訪ねてみるのもいいものです。



老一日落花をあだに踏むまじく
今年はも満朶の花を桑名に見

俳人 <small>はいじん</small>	高浜 虚子・星野 立子 <small>たかはま きよし ほしの たつこ</small>
所在地 <small>しよざいち</small>	桑名市東方 佐藤信義氏邸 <small>てい</small>
由来 <small>ゆらい</small>	虚子、立子が昭和24年4月に桑名へ来たときの作品で、佐藤信之助氏の母親 <small>おとこ</small> 益女 <small>ますめ</small> が記念として建てた碑 <small>ひ</small> です。虚子、立子の親子句碑は三重県では、この一つだけです。踏むは「ふむ」と読みます。満朶は「ばんだ」と読み、多く <small>ち</small> 垂れ下がった枝 <small>えだ</small> の意味です。



古里や臍の緒に泣くとしのくれ

俳人	まつお ばしょう 松尾 芭蕉
所在地	伊賀市上野赤坂町生家前
由来	<p>貞享4(1687)年12月に芭蕉が郷里に帰ったときの俳句です。『曠野』には「ふるさとや臍の緒に泣年の暮れ」とあり、『こがらし集』『笈の小文』『祖翁消息写』などにも収録されています。</p>



ゆふだちや田をみめぐりの神ならば

はいじん
俳人

えのもと きかく
榎本 其角

しょざいち
所在地

松阪市本町御厨神社

ゆらい
由来

この句碑は、別に夕立塚ともいわれて、其角の句碑の中でも有名なものです。松阪駅より西へ約10分歩いた右側にある御厨神社の境内に建っています。表には、「此神に雨乞する人にかわりて」と前書きがあります。



巢燕も覚めゐて四時に籠焚く

俳人	山口 誓子
所在地	伊勢市宇治中之切町「赤福」本店庭
由来	<p>誓子が伊勢の赤福本舗を訪れた際に詠んだ句です。「毎朝4時に起き、かまどの火を焚く。土間の梁に巣を作っている燕も目をさますだろう」と解説しています。(誓子句碑アルバムより) 伊勢市内には誓子の句碑は4つあります。</p>